

平成 30 年度第 3 回滋賀県協働プラットフォーム 議事要旨

1 日時

平成 30 年 6 月 19 日（火） 14 時 00 分から 15 時 00 分まで

2 場所

滋賀県大津合同庁舎 6 - A 会議室

3 テーマ名

平成 29 年度協働提案制度による事業の成果・課題
・女性の力を活かしたアグリビジネスの創出について

4 参加者

(1) NPO・関係団体等関係者

株式会社パソナ農援隊
湖国女性農業・推進委員協議会
滋賀県生活研究グループ協議会
しが農業女子 100 人プロジェクト



(2) テーマの提案者

滋賀県 県民生活部 県民活動生活課 県民活動・協働推進室

(3) 県関係各課

滋賀県 農政水産部 農業経営課

(4) 事務局

滋賀県県民生活部 県民活動生活課 県民活動・協働推進室

5 協議内容

(1) 事業担当部署から成果・課題を説明

○これから農業を始めたい、農業に関わる事業を始めたい女性への支援として、参入支援・ネットワーク構築支援として、年 5 回開催したアグリカフェ（就農相談会）や、アグリビジネスインターンシップ（農業体験）を行った。女性農業者のステップアップ支援として、6 回連続の女性のための農業経営塾や、幅広い視野で事業を考えるための異業種交流会を開催した。また、農業女子就農ガイドブックを作成した。アグリカフェでは、セミナーや事例発表の後、女性農業者へ気軽に相談できる交流相談会を行った。近江八幡、米原、高島で計 5 回、のべ 115 名の参加があった。就農への思いが高まった、他の参加者を見て自分もこれから頑張らなければと力をもらった等の参加者の意見があった。

アグリビジネスインターンシップとして、女性農業者の下で、農業や、加工品作り体験していただいた。県内各地で、受け入れていただける先輩女性農業者にマッチングをして、14 名が参加

された。参加者からは、就農や加工品製造を考えている段階から次の行動につなげることができたという等好評であった。

女性のための農業経営塾では、これから経営に参画していく、もしくは経営に参画していて、事業を発展させていきたいという若手女性農業者を対象に経営能力向上を図る研修会として開催し、20名が参加された。先輩農業者にも参加いただき、交流もしていただいた。参加者からは、事業計画をまとめることで、自分の頭の中が整理できたという感想をいただいた。

異業種交流会では、農業分野で活躍する女性とその他の分野で活躍する女性との交流、農業とは違う視点でビジネスを考えることを目的として、講演会も併せて実施した。24名参加があり、参加者からは、他の業種の方と交流できてよかった、これからもよいネットワークをつくっていききたいという意見があった。

情報発信の強化を図るため、しが農業女子100人プロジェクトをはじめとする農業者と一緒に就農ガイドブックを作成した。今後、アグリカフェでの相談会などで、就農を考える女性へ配布していく。

本事業の成果は、新たに農業へチャレンジしたいという女性の掘り起し、意識啓発につながったということである。従来は、アグリカフェのような、気軽に相談できる場がなかった。これから農業を始める女性、始めて間もない女性を後押しするような場をつくれた。

また、事業実施により、女性農業者同士のネットワークが作れ、女性農業者が経営能力向上に寄与できたと思う。

課題として、アグリカフェ来場者のような就農に向けて情報収集段階の女性に対し、次の行動に移るための支援が益々必要である。今年度は、インターンシップ等の経験する場を広げていきたいと思う。

(2) 対話・協議の内容

○県と民との協働事業には三つの観点がある。一つ目に、協働ということは県の下請を行うことではなくて、県では民の力を借りないとできないようなこと、手に届きにくいことを県民とともに広げていくということ。二つ目に、県下全域とか、農業分野とか公益性のある、公共性のあることに、民だけでなく公と一緒にいった方が、効果のあることから行っていくこと。そして三つ目には、やがて公共施策になった方がいいと思うことに対して、いきなりできないので、まず実験的、試行的に公と民がタッグを組んでやってみること。これらの観点から考えたとき、実施されたアグリビジネス創出事業というものが十分な成果があった、または、ある程度できたことはあったが、やっぱりまだ不十分な点があったか、という観点から昨年度の事業を見つめ直して、意見をいただきたい。

○農業委員会では、農林水産省の農地中間管理事業で農地の集積集約を進めており、農業で生業をたてる専業農家をつくっていこうという方針である。それのみをやられると、農村に女性がいなくなる。女性がいなくなると、農村がなくなってもいいというわけ。それでは、駄目じゃないかという思いがあって、この事業の話聞いたとき、もう、最後のチャンスではないかと思った。昨年事業を行ってみて、こんなにも若い女性農業に取り組もうといっぱい参加してくれた。農地中間管理事業が始まってから女性が農業から離れてしまってきている。本当に虫を探すようなもの。

第1回が終わって、ずっと考えていたのはJAをなぜ巻き込まなかったんだろうということ。JA女性部の方がいたら、もっと人を集められ、新しい見方ができたのかと思う。JA女性部では色々な取組をやっている。JAの考え方とは違って、断られたが、一回話してみる必要がある。JA女性部会も多忙と聞いている。

○園芸品目で新規就農し、県の普及所に応援してもらっているという事例がでかけていたところに、この事業があり、若い女性が参加してくれた。また、新たな参加者もこれを機会にできかけている。若い人が増えてくれるといい。

JAが見ている方向と、我々との価値観がちょっと違うのではないかとも思う。女性らしさを活かした方向で進めていくことがいいのではないか。それであればこそ、女性もイキイキできる。○大きな組織とつきあうというのは、農業だけでなく、どの世界でも同じで、難しい。でも、それはよし悪しな所がある。

○昨年度各団体で集まって会議をして、みなさんの意見をもとに事業を進めたので、インターンシップやアグリカフェにたくさん参加してもらえ、やらされ仕事でなく、やりたいことに取り組めたので、単なる委託事業と意味合いが違ったと思う。県内の団体が頑張ってくれたのが大きいと思う。県域全体で同じ志をもった女性農業者、これから農業を目指したい人がネットワークでつながっていくというのは意義のあることだと思う。

○滋賀県において、農業従事者は男性も含めて高齢化していており、若い人が少ない。昔は、結婚して女性も夫と農業する家族経営の農業が多かった。最近では、農家も大規模化し、人を雇う例が増える一方、家族経営体数が減っている。専業で従事する若手女性農業者が大変少ない。県内で20~30代の若い女性の専業農家を探そうとすると、本当に点在している状態。県としては、何とか増やしたい。その地域の農家がたくさんおられたので、若い女性農業者同士が知り合うきっかけがあった。今は、人数が少なく、集まるような機会がない。女性農業者の団体であるしが農業女子とかの団体に協力してもらって、ネットワークをつくってもらえたらと思っている。この協働事業をやることによって、知り合うことができ、話が聞けてよかったとか、個人的にもつながりができたとか、という話を聞いている。女性農業者の団体に協力してもらい、また、民間企業のノウハウを活かせることができた。新しい取組で、調整とか大変なところもあったが、良い取組ができたと思う。

○若い女性農業者のネットワークをつくるのが難しくなっている。

○成果としては、世代間交流が生まれたことかと思う。経営塾の講師として、リクエストして呼んでもらえることができ、価値のあるものとなったと思う。求めている内容をダイレクトに伝えられ、全部ではないが、それを実現できたということで、非常に良かったと思う。

○個々がつながって、ネットワークができたこと、世代間交流ができたこと、人材育成ができたことにより、一定の成果があったと感じておられる。今後、この事業をよりよくしていくにはどうしたらいいのかについて、意見をいただきたい。どういう所とネットワークを広げていくのかということも一つの観点だと思う。また、単発ではなく、一定の期間をとって、いかに人材を育ていくかというのが非常に大きな課題であると思う。

○まず、興味を持っている人をどうやって集めていく、さらなる発掘が大事だと思う。人を集め、その中で1割でも5%でも根付いてくれる人を育てていく。人を集める手法をどうしたらいいのかと思う。一番の課題であると思う。

○滋賀県の中で集めだけでは、駄目だと思う。近畿に限らず、全国から集めていく必要がある。農業に興味をもっていただければいいと思う。農作業をすること以外に、販売や経理とかのサポートという面で関わっていくということでもいいと思う。農業するには、販売していかないといけないし、付加価値をつけていく必要がある。色んな能力が必要。興味を持ってもらうことが大事。

○農業そのものではなくても、その周辺からでも関わっていける機会をつくれるようなことが大事ということの意見をいただいた。

○県の方に考えてほしいのは、県内の優良農地面積等を考えて、経営を成り立たせるには農業者をどこまで増やせるのかということ。データに基づいた育成も必要だと思う。

○県では滋賀県5万haの耕地面積から計算して、新規就農の目標人数を設定し、事業を推進しているが、何より今の農業従事者の平均年齢が68歳を超えており、20～30代の農業就業人口が極端に少ない。10年たったら、農地を守れるだろうか。特に滋賀県の場合は、年齢構成が極端。技術の伝承も必要だし、本当に最後のチャンスなのかもしれない。農業は面白いし、いい仕事だと思うが、それを知らない人が圧倒的に多い。知ってもらったら、農業やりたいと思う人も増えるだろうし、農業が好きな人が増えれば、農業農村を守れると思う。また、持続可能な産業として成り立っていくと思う。まず、人を集めるのが本当に一番大事だと思う。

○人集めというのは最大の課題だと思う。他県でも同じような課題がある。大学生と話していて、キャリアの中に農業という選択肢がないということを感じている。これから就職しようとしている人、どうやって生きていこうか考えている人に対して、積極的にアプローチをし、職業としての農業をわかってもらう活動が必要だと思う。三重県ではこの取組をやっていて、農業法人の社長が高校の職業研修で話すことで、実際就職したという事例がある。もっと若い段階から、取組んでいく必要があると思う。当面は、一般的な周知活動が必要だと思う。

○いろんな団体が集まっているのだから、大きな目標みたいなものを話し合おうという時間をもってよかったと思う。アグリカフェの内容とか、個別の項目も大事だけど、何のために後継者を集めるかとか、どのエリアが特に必要なかとか、ということ話し合う時間が持てたらよかったと思う。あと、外から人を集めるという意味だと、今年はホームページの予算があるので、どんどん発信していきたい。若手の滋賀県人会というものもあるので、そういうところに声をかけるとか、できることはまだまだある。

○この事業において、発信を続けることは意義のあることだと思う。やっていくと色んな人が集まってきて、そこから色んなアイデアが生まれ、個別具体的な事業が展開していける。一方、もっと、こちらからアウトリーチをしかけていこうとか、待っているだけではなく、こちらから、深く入り込んでいこうというアプローチが今後必要となってくると思う。みんなで知恵を出し合いながら、試行錯誤しながらやっていくことが大事だと思う。

(終了)